

# ワット・ビット・コネクトフォーラム

## パネルディスカッション②

### 強靱なワット・ビット連携を構成する技術・サービスの展望

#### <パネリスト>

#### ①小泉 真吾

電源開発株式会社 執行役員

#### ③丹波 廣寅

ソフトバンク株式会社 執行役員  
次世代技術開発本部 本部長

#### ④矢野 恒

九州電力株式会社 情報通信本部  
ICT事業推進グループ チーフアーキテクト

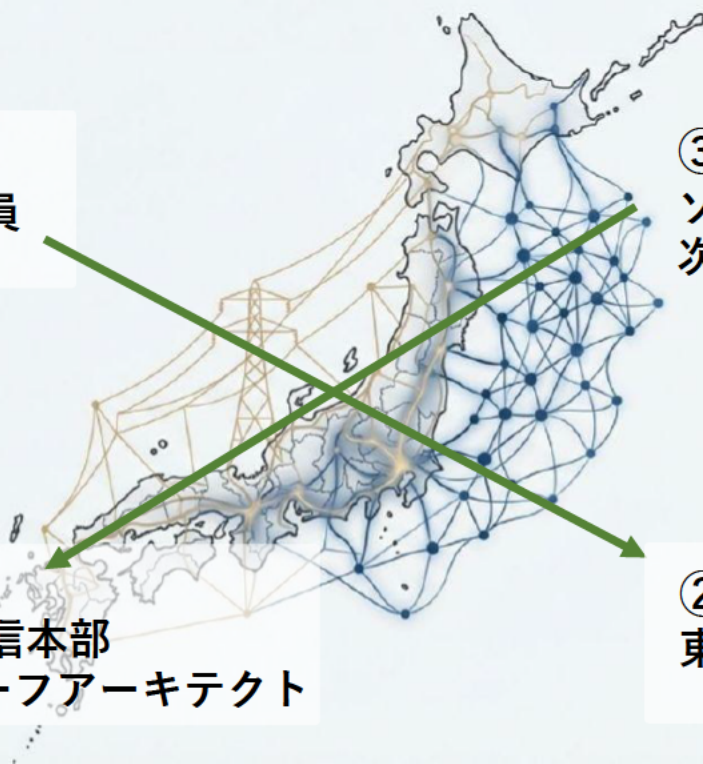
#### ②田浦 健次郎

東京大学 執行役・副学長 教授

#### <モデレーター>

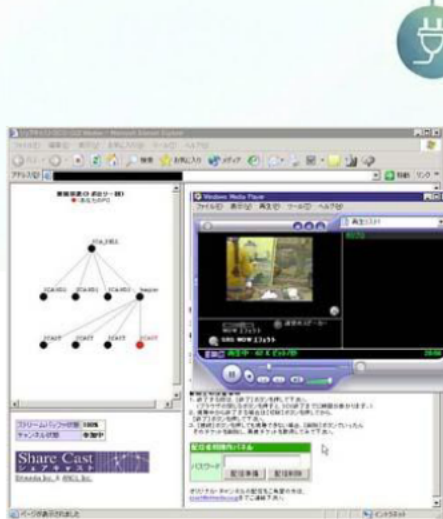
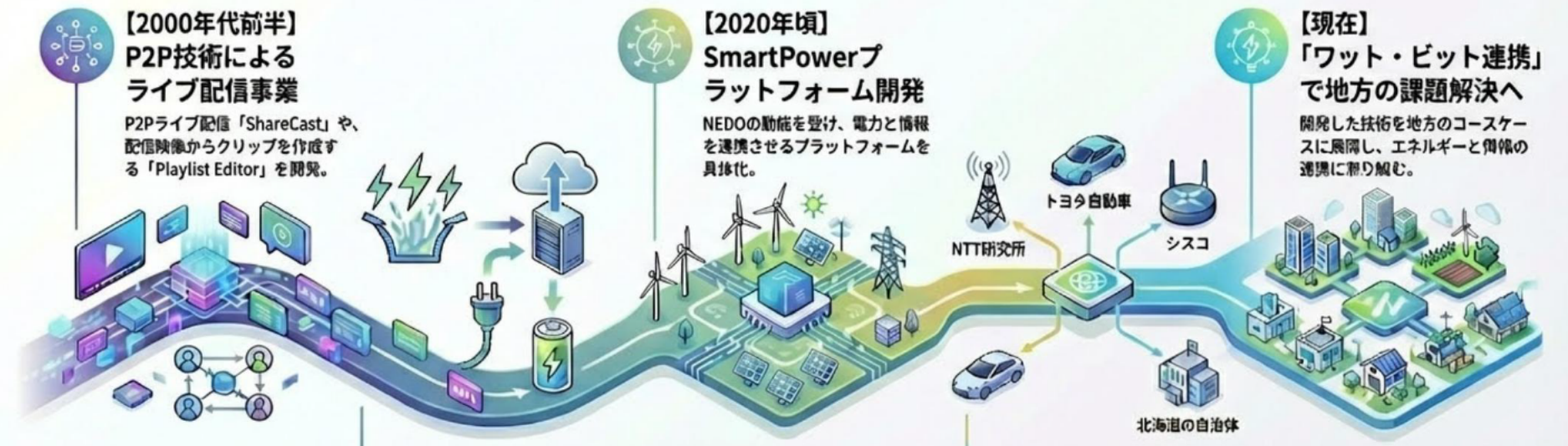
#### ■高野 雅晴

株式会社ビットメディア 代表取締役社長 兼 株式会社MESH-X 代表取締役



# ビットメディア/MESH-Xのこれまでの取り組み

## 自律分散技術からワット・ビット連携へ

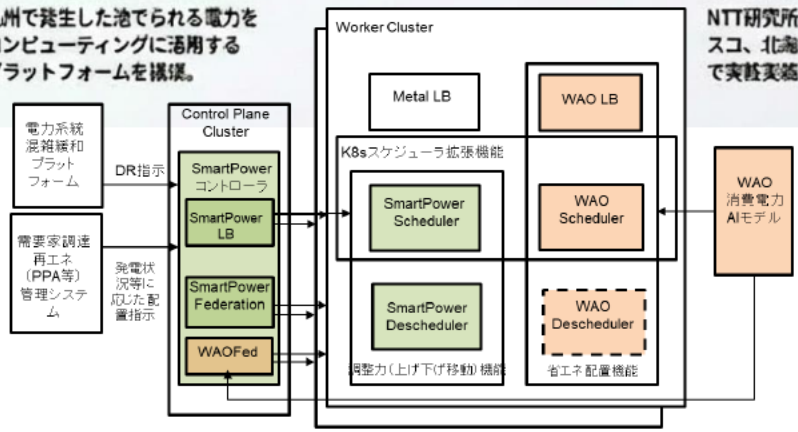


### 【2017-2018年】余剰電力問題から新事業を発案

九州で発生した捨てられる電力をコンピューティングに活用するプラットフォームを構築。

### 【2020年以降】大手企業・自治体との連携拡大

NTT研究所、トヨタ自動車、シスコ、北海道の自治体等と共同で実証実験(POC)を実施。



経営に活かす  
**生成AI  
エネルギー論**

岡本 浩 Hiroaki Okamoto 高野雅晴 Masahiro Takano

スマートブリッド第一人者、読者必読の「AI」×「エネルギー」の最新解説がわかる

**AIのせいで電力が足りない!?**

【徹底収録!】  
東京大学 高橋 直人  
東京大学 松尾 浩二

【読者必読】「エネルギー効率」ですべてを決定せよ!



# ワット・ビット連携関連の海外の取り組み例

## AIインフラの課題解決に向けた3つの戦略的アプローチ



### アプローチ 1：クリーン電力の創出と活用

再生可能エネルギーや未利用エネルギーを直接活用し、AIデータセンターの動力源とするアプローチ。

該当企業：

Crusoe：フレアガス（余剰ガス）をAI計算資源に転換

Lancium：再生可能エネルギーを基盤とした「クリーンキャンパス」を開発



### アプローチ 2：電力網との連携・柔軟化

データセンターを電力網の調整力として活用し、需要応答（デマンドレスポンス）によって系統全体の安定化に貢献する。

該当企業：

Emerald AI：電力網と連携する「電力柔軟性AIファクトリー」を構築

Verrus：ユーティリティ規模のバッテリーを統合し、瞬時の負荷制御を実現



### アプローチ 3：既存資源の徹底的な効率化

既存のコンピューティング資源をソフトウェアで抽象化・最適化し、ハードウェアの追加調達を抑制することで、内包炭素を削減するアプローチ。

該当企業：

Google：「中央フリート管理」によるリソースの再利用と長寿命化



# パネルディスカッション・テーマ案

## 1. 強靱性の定義 (Defining Resilience)

我々は何に対して強くなるべきか？  
その成功をどう測るか？



## 2. 技術スタックの共通層 (The Common Tech Stack)

連携の土台となる、最低限合意すべき  
技術セットは何か？



## 3. シグナル設計 (Designing the Signals)

何を見て、どう動くシステムを作るか？  
信号の信頼性をどう担保するか？



## 4. 事業化と制度 (Business & Policy)

誰がどう担い、どう持続可能なビジネス  
にするか？ 必要なルールは？



## 5. 地理的配置と技術特性 (Geographical Allocation and Technical Characteristics)

どのような処理が地理的制約をより  
強く受けるか？その課題を解決するの  
は配置か、技術か？



### a. 国土をどう有効活用す るか？

- 活用できる地理的特性や脱炭素電源は何か？地域内外のどのようなユースケースが考えられるか？



### b. 今の障壁は何か？

- 各地域で連携して、全国・地域のDXやAI開発・利活用を促進するためには、今何が足りないか？



### c. 連携・展開の鍵は何か？

- 分野横断に向けた現在の課題は何か？将来的な各地域への展開を加速するために、今どのような準備（共通仕様、ルール整理など）が必要か？

